

○一般社団法人 日本森林学会

2017 年度第 4 回（通算第 463 回）理事会・連携学会長合同会議 議事録

日時：2017（平成 29）年 12 月 20 日（水）13:00～17:30

場所：日林協会館 5 階 中会議室

開催者：中村太士

出席者：会長）中村太士，副会長）黒田慶子，田中浩，理事）堀靖人，竹中千里，丸山温，福田健二，太田祐子，宮本麻子，正木 隆，山本美穂，大久保達弘，大河内勇，船田 良，井出雄二，小島克己，井上真理子，連携学会会長）高橋孝悦，大住克博，岡 勝，連携学会会長代理）桂 真也，坪山良夫，竹中千里，主事）山川博美，大橋伸太，小長谷啓介，古川拓哉，竹本太郎，橋本昌司，木村 恵，岩永青史，事務局）稲村崇子，編集部）町田庸子 [学会誌刊行センター]，オブザーバー）木暮甲吉 [林野庁]，網田克明 [全林試協]

議長：中村太士

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下の通りである。

1. 第 129 回大会（高知大学）における本部主催企画

第127回・第128回大会に引き続き第129回大会で行う論文執筆に関するセミナーについて，男女共同参画に係る事業との合同企画として開催することが正木理事から提案され，提案の通り承認された。

2. 中等教育連携推進委員会内規および「高校生ポスター発表」実施要領の制定

中等教育連携推進委員会内規および「高校生ポスター発表」実施要領の制定について井上理事から提案され，文言の修正を行ったうえで承認された。

3. 第131回大会の開催機関の決定

中部森林学会からの推薦にもとづき，第 131 回学術大会の開催機関を名古屋大学にすることが提案され，提案の通り承認された。なお，受賞者講演は大会期間の中日に開催してほしいとの意見が出された。

4. 日本農学会「次期会長・副会長・監事候補者」の推薦

日本農学会から次期会長，副会長および監事候補者の推薦依頼があったことが堀理事から報告された。候補者の推薦について審議され，候補者を推薦しないことを決定した。

5. JFR 編集委員の部門区分の見直し

JFR 編集委員の部門区分について，現在の 3 つの大区分 (Socioeconomics, Planning and Management; Environmental Science; Biology and Ecology) から 4 つの大区分 (Socioeconomics, Planning and Management; Forest Environment; Silviculture and Plant Science; Forest Health) に変更すること，区分変更に関連して，JFR の Aims & Scope および JFR 論文賞内規を変更することが福田理事から提案され，提案の通り承認された。

6. JFR への Graphical Abstract の導入

JFR のオンライン版に限り，著者からの希望があれば Graphical Abstract の掲載を認めること，投

稿規定に Graphical Abstract について記述を追加することが提案され、提案の通り承認された。

7. 森林科学編集担当主事の委嘱

小長谷啓介主事が2018年3月31日をもって退任するため、岡本隆会員（森林総合研究所）を後任として4月1日から2年間、森林科学編集担当主事として委嘱することが太田理事から提案され、提案の通り承認された。

8. 著作権規定の改正

著作権に関わる条文である「4-2.著作権における著者に許容される権利」について、著作権の転載許可に関する条文を整理した改正案が太田理事より提案されたが、森林科学だけではなく日林誌およびJFRも関係すること、商用目的の際の著作権の移譲などについて意見が出され、日林誌、JFRおよび森林科学の3誌合同で再度検討することとなり、継続審議となった。

9. 平成30年度学会各賞受賞者の決定

表彰委員会、JFR 編集委員会、日林誌編集委員会での選考経過と受賞候補者が正木理事、福田理事、丸山理事からそれぞれ報告された。審議の結果、日本森林学会賞を陶山佳久会員（東北大学）、田村淳会員（神奈川県自然環境保全センター）に、日本森林学会奨励賞を小林真会員（北海道大学）、梅林利弘会員（北海道大学）に、日本森林学会学生奨励賞を邱湏瑋会員（投稿時：九州大学、応募時：東京農工大学）に、日本森林学会功績賞を金子真司会員（森林総合研究所）、紙谷智彦会員（新潟大学）に、それぞれ授与することを決定した。また、JFR 論文賞を Wei Wang, Yuichi Hanai, Chisato Takenaka, Rie Tomioka, Kazuya Iizuka & Hajime Ozawa による論文（21 巻 5 号 251-258 頁）に、日本森林学会誌論文賞を山田祐亮による論文（99 巻 2 号 84-96 頁）にそれぞれ授与することを決定した。

10. 学生ポスター賞選考委員会の設置

第129回大会における学生ポスター賞の選考にあたって選考委員会を組織することが正木理事から提案され、提案の通り承認された。

11. JSTフューチャーグリーンの提案依頼への対応

昨年より当学会から提案可能かどうか打診を受けている科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センターの植物資源環境技術の研究開発（フューチャーグリーン）について、黒田副会長から現在の進捗状況の報告および今後の作業手順について提案され、提案の通り承認された。

12. 丸善出版から「森林学の百科事典」（仮題）の出版

丸善出版から「森林学の百科事典」（仮題）の出版に関する提案があり、編集幹事会を組織し作業を進めていることが報告され、今後の進め方について8名程度の編集委員を選考することなどが提案され、提案の通り承認された。

13. 林業遺産選定内規の改正

積極的な重複指定の奨励、追加認定に関する規定、解除および一部解除に関する規定を林業遺産選定内規に明記すること、選定期間の修正が佐藤理事の代理として竹本主事より提案され、提案の通り承認された。

13. 第 129 回大会での国内研究機関アンケート結果の報告

森林・林業関係試験研究機関の現状と研究推進上の課題に関するアンケート調査の結果を第 129 回大会でポスターによる紹介を行うことが井出理事より提案され、提案の通り承認された。

14. 男女共同参画学協会連携分担金の見直し

当学会も正式加盟学協会としている男女共同参画学協会連絡会の分担費を 2 倍（当学会の場合、2 万円）もしくは 1.5 倍（当学会の場合、1 万 5 千円）に値上げすることが連絡会より提案されており、分担費の値上げについて各学会からの意見集約が行われていることが山本理事より報告された。これに基づき、当学会の対応方針について審議され、分担費を 2 倍に増額することで決定した。

15. 理事会議事録の承認

2017 年度第 3 回（通算第 462 回）理事会、2017 年度第 4 回メール理事会の議事録が承認された。

16. 次回理事会の開催

次回理事会を 4 月に開催することが承認された。

報告事項：

1. 第 129 回大会（高知大学）の準備状況

後藤理事（第 129 回大会運営委員長）の代理として堀理事から、公開シンポジウム、ポスター発表会場、高校生ポスター、関連学会の申し込み、企業展示、託児所利用申し込み、懇親会などの準備状況が報告された。その他、宿泊施設密集地と大会会場が離れていることから、とさでん交通（路面電車）と JR 四国に円滑な運行を促すため、情報提供と混雑回避の要請を行っていることが報告された。

小島理事（プログラム編成委員長）から、発表申し込み件数は 888 件で、前回大会より発表件数が増えていること、以前は関東地区で大会を開催するときには発表件数が多い傾向にあったが、最近はどこで開催しても発表件数に違いはないこと、大会のタイムテーブルの案などについて報告があった。

井上理事（中等教育連携推進担当）から、高校生ポスター発表に 29 件の申し込みがあったこと、ウェブページから参加申し込みは 3 分の 1 程度であったこと、国土緑化推進機構の助成により旅費の補助およびポスター集の作成を行うこと、大学および大学校の案内をポスター会場に掲示すること、大会ウェブページに中等教育連携推進委員会のページの開設を検討中であることなどが報告された。高校生ポスター発表の申し込みについて、ウェブページからの申し込みができない理由を把握し対処した方が良いとの指摘があり、その理由の把握を行うこととなった。

2. 各連携学会からの報告

各連携学会の会長または会長代理から、役員体制、総会・大会の開催、刊行事業、表彰制度、会員数の動向、財政状況などの報告があった。各連携学会に比較的共通する課題として会員数の減少や、大会開催や事務局を各県持ち回りで担当することが難しくなりつつあることなどが指摘された。また、科学と技術の共用がなくなっていること、自治体や国有林の職員が関わりやすい場所を提供する必要があること、当学会として情報交換のプラットフォームを提供してはどうかなどの意見が出された。

関連して堀理事から、学術大会の開催順番や学術大会運営規則に定められた手順、科研費（研究

成果公開促進費)の発案順番についての確認があり、本年度は北方森林学会が発案の順番となっていたが次年度へ持ち越すことが報告された。学術大会について、学会各賞の受賞者講演は大会開催期間の中日に設定すべきとの意見がだされた。

3. 総務担当からの報告

堀理事から、日本農学会の評議員会および総会の開催について一般社団法人化の設立手続きや日本農学会賞の選定を行うこと、平成30年度日本農学会シンポジウムの予定などについて報告された。

4. 選挙管理委員会からの報告

堀理事(選挙管理委員長)から、10月15日に告示された代議員選挙の結果について、12月20日に選挙結果を公告したこと、投票率が42%であり電子投票を導入してから投票率が上がっていること、女性比率が19%であったことなどが報告された。また、代議員の女性比率については会員の女性比率が18%であることから妥当であることや、女性だけでなく若手も選出されるようになると良いなどの意見がだされた。

5. 日本森林学会誌編集担当からの報告

丸山理事から、日林誌の編集状況、Web of Scienceへの掲載へ向けた進捗状況が報告された。Web of Scienceへの掲載について、編集部の町田氏から、文献の英文化、英文の投稿規定がない、論文賞推薦文の英文がないことなどが問題となっている可能性があることが補足された。また、編集委員会の地区での持ち回りについて、地区内で専門分野の担当者を決めるのが難しく、編集委員を全国から選んだほうが良いとの意見を受け、今後検討することとなった。

6. JFR編集担当からの報告

福田理事から、JFRの22巻5号および6号を刊行し、6号には特集「Fir species and forests」を含むこと、23号1巻(2018年2月発行予定)では、特集「福島原発事故後の森林生態系での放射性セシウム動態：初期5年間の経験」を予定していることが報告された。

7. 森林科学編集担当からの報告

太田理事から、森林科学81号「特集：森から生まれる新素材「セルロースナノファイバー」を紐解く」を刊行したこと、また82号「特集：観光のグローバル化に向けた森林管理のあり方(仮)」の編集を進めていることが報告された。また、J-stageへの移行について、CiNii欠番号の搭載を創文印刷に委託したこと、書誌情報を整理中の74号は次年度の搭載を委託する予定であること、コラム「森の休憩室II 樹とともに」の書籍化について、著作権は移譲せず、出版社に利用許諾を与え、その使用料は請求しない形で契約し直し、複写権に関わる条文の変更は行わないことになったこと、沖林野庁長官へ巻頭言の寄稿を依頼し、82号(2018年2月)に巻頭言として掲載予定であることが報告された。森林科学の編集委員として、林業遺産担当分野を増設し、林業遺産選定委員会の主事を勤め終わった方にスライドしてもらうことを慣例化させ、4月1日から竹本太郎氏を林業遺産担当として編集委員を委嘱すること、編集委員の松木佐和子委員が2018年3月31日をもって退任し、後任として4月1日から2年間、林雅秀氏(山形大学)に編集委員を委嘱することが報告された。

8. 広報担当からの報告

宮本理事から、メールマガジンの発行、アドレスリストの更新、ウェブサイトの更新状況、ウェブサイトへの中等教育連携推進ページの新設について報告があった。

9. 表彰担当からの報告

正木理事から、当学会から推薦した中島徹会員（東京大学）が農学進歩賞を受賞し、11月24日の受賞式および受賞者講演に田中副会長、白石監事、橋本主事が出席したことが報告された。また、農学賞、文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞候補者の募集は応募者が無かったことが報告された。

10. 男女共同参画担当からの報告

山本理事より、第129回大会で男女共同参画担当企画のランチョンミーティングを「海外滞在と研究者家族」をテーマとして、北原文章会員（森林総合研究所）および藤原敬大会員（九州大学）に講演をお願いしていることが報告された。

11. 企画・林業遺産選定担当からの報告

佐藤理事の代理として竹本主事から、2017年度の林業遺産公募の締め切りを12月31日とすること、2018年度の応募および選定のスケジュールが報告された。

12. 学協会連携担当からの報告

大河内理事から、当学会がサポート連絡会に参加しているウッドデザイン賞の授賞式に出席したことが報告された。

13. 木材学会連携担当からの報告

船田理事から、第68回日本木材学会大会（京都大会）の開催案内及び日本森林学会と日本木材学会で学術大会にそれぞれ5名ずつ招待していることが報告された。

14. 国内研究機関連携担当からの報告

井出理事から、国内研究機関へのアンケート結果を学会ウェブページに掲載したこと、協力いただいた機関にアンケート結果の取りまとめを送付したことが報告された。

議事録作成者：堀靖人，山川博美